



【韓国】 総合指数は週間で0.3%高と続伸、一時1年7カ月ぶり高値

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.3%高と続伸。米金融政策や国内政治問題、北朝鮮を巡る地政学的リスクなどを背景に投資家の慎重姿勢が目立ち、総じて小動きとなった。1週間を振り返ると、13日は続伸でスタート。サムスン電子の李副会長を取り調べるとの観測が浮上したが、海外勢の買い越しが支えた。15日は米利上げや国内政治スキャンダルに対する懸念がくすぶる中、国内機関投資家の買いが相場を押し上げた。16日は寄り付き直後に2090を超え、2015年7月以来ほぼ1年7カ月ぶりの高値を付けたが、勢いは続かず、17日は李副会長の逮捕を受け、グループ企業の一角が下落したほか、海外勢の売りが相場を圧迫し、続落して終えた。今週は20日に1月の企業物価指数（PPI）、21日に2月の20日間輸出入統計が発表される。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で1.0%安と3週続落、今週は自律反発に期待

先週の動き／今週の展望

先週の RTS 指数は高水準な売買代金を維持しながらも1.0%安と3週続落。2014年以来の高値圏でもみ合い16日までは前週比プラスを維持していたが、週末の17日に前日比2%超下落し、週間ではマイナスとなった。週前半は前週末からの流れを受け小幅に続伸したが上値は重かった。高値圏でもみ合いが1月下旬から続いており、さらに上昇するには力不足だった。週中から週末にかけては、米国の利上げペースが予想より加速すると観測が強まり、ロシアなど新興国からの資金流出懸念が高まった。また、原油価格の下落がエネルギー株を押し下げた。米政府高官がロシアとの接触疑惑を受けて辞任したことで、米露の関係改善期待が後退していることも心理的重し。17日の急落を受け、今週は自律反発に期待したい。

▼指数チャート



【ベトナム】 VN 指数は週間で0.6%高と8週続伸、今週は短期的に調整か

先週の動き／今週の展望

先週の VN 指数は売買代金を伴いながら堅調に推移し、8週続伸。2月2日に9年ぶりに700ポイントを回復した VN 指数は、先週も上昇基調が続く、前週末から15日まで4日続伸となった。米株高を好感し、銀行や不動産、建設などの主力銘柄が堅調。16日には前週末比2.0%高の717.57ポイントまで上昇し、9年ぶりの高値を更新した。ただ、高値更新後は上昇ピッチの早さに対する警戒感の高まりで利益確定売りに押され、16-17日は続落。週間では0.6%高の707.83ポイントと上昇幅を縮小して終えた。個別では不動産のビンググループと、MSCI フロンティア・マーケット・インデックスへの新規組み入れが決まったファロス建設が指数の上昇をけん引。今週は短期的な調整も予想されるが、調整後は自律反発も想定。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.4%安、1月の輸出入は前年同月比 2 けた増と好調

ジャカルタ総合指数は 4 日間の取引で 0.4%安と 4 週ぶりに反落。週初は好調だったものの、その後は週末まで 3 日続落と低迷した。13 日は金融株が買われて指数は終値ベースで約 3 カ月ぶりに 5400 ポイントを回復。ただ、勢いは続かず、14 日に反落すると、ジャカルタ特別州知事選挙日のため休場となった 15 日を挟んだ 16 日は、16 年 12 月期決算で純利益が 32% 減と不振だったマンディリ銀行株が売られて小幅に続落。同日に発表された 1 月の貿易統計は輸出入ともに前年同月比で 2 桁増と好調だったが補えなかった。今週は国内の重要イベントが少なく、22 日に発表される FOMC 議事録の内容が焦点になる。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.2%高、1年6カ月ぶりの高値更新

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.2%高と続伸。おおむね堅調な値動きだった。週初の 13 日は前週からの流れを引き継ぎ 3 営業日続伸し、終値で 1 年半ぶりの高値を更新。一方、14 日は 16 年 10-12 月期決算で 2 けた減益となったオーバーシー・チャイニーズ銀行の値下がり響き、前日比 1.3%安と 4 営業日ぶりに反落したが、15 日に反発すると週末まで 3 日続伸と堅調だった。特に 17 日は、16 年 10-12 月期の GDP 改定値が前年同期比 2.9%増と、速報値の 1.8%増から上振れしたことが好感された。今週は 23 日に 1 月の CPI、24 日に鉱工業生産が発表される予定。CPI 上昇率の市場予想は前年同月比 0.7%。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.5%安、今週は 20 日に 16 年 10-12 月期の GDP 発表

SET 指数は 4 日間の取引で 0.5%安と反落。連休明けに下落し、その後に上昇したが戻せなかった。14 日はイエレン FRB 議長の証言を目前に控えた様子見で反落。その後は買い材料に乏しい中、じりじりと値を上げ、週末まで 1580 ポイントを挟んでもみ合いながら 3 日続伸したが、結局この水準を割り込んで週の取引を終えた。今週は 20 日に 16 年 10-12 月期の GDP が発表される予定で、市場予想の前年同期比 3.0%増から上振れすれば相場の支援材料。外部要因では今後、OPEC が減産幅を拡大するとの見方が浮上しており、原油価格が順調に回復すれば、指数ウェートの大きい資源株の値上がり期待できる。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.5%高、16 年 10-12 月期の GDP は前年同期比 4.5%増

クアラルンプール総合指数は週間で 0.5%高と続伸。終始 1700 ポイント台で推移し、安定を維持した。週初の 13 日は前週末からさらに上値を広げ、終値で約 10 カ月ぶりに節目の 1700 ポイントを回復。その後は週末まで 1710 ポイントを挟んで小幅なレンジでもみ合った。16 日に発表された 16 年 10-12 月期の GDP は前年同期比 4.5%増と市場予想をやや上回っている。今週は 22 日に 1 月の CPI が発表されるほか、週後半には企業決算が集中する予定で、株式相場を左右する材料になりそうだ。外部要因では、NY ダウが前週末まで 7 営業日連続で過去最高を更新したことが追い風になるか期待される。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。